

いちじく(品種:栴井ドーフィン)

山武農林振興センター

1 地区名(集団名)

山武市成東地区(山武市成東いちじく組合)

2 栽培戸数、面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数 15戸
- (2) 栽培面積 2ha
- (3) 収穫量又は出荷量 15.8t (790kg/10a)
- (4) 出荷先又は販売方法 市場出荷、直売

3 ちばエコ基準達成状況

区 分	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬(成分回数)	6回	9回
化学肥料(窒素分量)	0/10a	8kg/10a

4 事例のあらまし

山武市では、平成15年から新たにいちじくの栽培が始まりました。現在は栽培戸数15戸、栽培面積2haに拡大しています。本年(平成20年)、組合では、産地の一層の知名度向上と有利販売を目指し、ちばエコ農産物の認証を目標に、ちばエコ基準での栽培に3戸で取り組みました。

土づくりではたい肥や有機質肥料を活用し、病虫害防除では特に問題となるアザミウマ類の適期防除に取り組みました。その結果、ちばエコ基準での栽培に成功したことから、来年度に向けて栽培計画の申請を行いました。いくつか課題も残りましたが、今後の拡大に向けて第一歩を踏み出しました。

5 背景・動機

山武市成東地区(旧成東町)では、遊休農地の解消や新果樹導入による地域活性化を目的に、平成15年から新たにいちじくの栽培が始まりました。平成16年には成東いちじく組合が結成され、平成17年から組合を通して本格的な市場出荷が始まりました。現在は成東地区以外にも拡大し、栽培戸数15戸、栽培面積2haとなり、地域の特産品として認識されつつあります。

組合では栽培講習会やほ場巡回、先進地視察を定期的に行い、組合員の技術向上を図ってきました。また、出荷時の検査を厳しく行っており、後発産地ながら市場から高い評

価を得ています。しかし、産地の知名度をより高めて有利販売を目指すためには、さまざまな方法でPRする必要性を感じました。そこで、安全・安心をアピールする手段としてちばエコ農産物の認証を目指し、試行的に3戸でちばエコ基準での栽培に取り組むことにしました。



ほ場巡回で技術向上を図る



反射マルチでアザミウマ類の飛来防止

6 栽培方法

(1) 土づくり

いちじくは新梢伸長、花芽分化、果実の成熟が同時に行われ、収穫が長期間にわたることから、生育期間を通じて過不足ない安定した肥料成分の供給が必要です。そのため、緩効性の有機質肥料を主体とした施肥が適し、ちばエコ基準に沿った施肥がしやすいといえます。実際に組合では、従来から有機質肥料の使用を推奨してきており、今回の取組に際しても特に問題はありませんでした。

具体的には、まず12月に地力向上や土壌pHの改良のため、牛糞たい肥2t/10a、苦土石灰110kg/10a、フタバエース（混合有機質肥料）200kg/10a、魚粉130kg/10a、米ぬか130kg/10aを施用しました。また、2月には基肥として味好1号（有機100%）を130kg/10a、4月と6月に追肥として味好1号をそれぞれ70kg/10aと30kg/10a施用しました。

(2) 病虫害防除

ちばエコ基準での栽培に取り組むに当たって、前年度に大きな被害を受けたアザミウマ類の対策が最大の課題でした。そこで、アザミウマ類を誘引する青色粘着板をほ場に設置し、誘殺数の増減を調べました。その結果、ほ場により差はありましたが、青色粘着板に誘殺されるアザミウマ類は6月中は比較的少なく、7月に入ると急激に増加し、7月中旬から下旬にかけてピークとなることがわかりました。一般にアザミウマ類の防除適期は6月中旬から下旬とされていますが、実際の発生消長がわかったことで適切な時期に薬剤散布をすることができました。

また、アザミウマ類の飛来防止に効果があるとされる、反射マルチについての試験も行いました。うねの両側に銀色反射マルチを60cm幅で敷き、青色粘着板に誘殺されるアザミウマ類を数えたところ、敷かない場所に比べて明らかに少なく、その効果は7月中旬まで続きました。反射マルチの効果が確認できたことで、殺虫剤の使用を一層減らせる可能性が示唆されました。

ア 栽培管理

作業名	実施年月日
前作収穫終了	平成19年11月25日
収穫開始	平成20年 8月19日
収穫終了	11月21日

イ 使用資材

(ア) 土づくり・施肥等

(10aあたり)

使用銘柄 (N:P:K)	実施年月日	施用量	全 N	化学N
牛糞たい肥	平成19年12月10日	2t		
苦土石灰	12月10日	110kg		
フタバエース (6:2:1)	12月20日	200kg	12kg	
魚粉	12月20日	130kg		
米ぬか	12月20日	130kg		
味好1号 (6:8:4)	平成20年 2月10日	130kg	7.8kg	
味好1号 (6:8:4)	4月20日	70kg	4.2kg	
味好1号 (6:8:4)	6月10日	30kg	1.8kg	
合 計			25.8kg	

(イ) 病害虫・雑草防除等

使用農薬	対象病害虫	実施年月日
ネマトリンエース粒剤	ネコブセンチュウ	平成20年 6月18日
アディオオン乳剤	アザミウマ類	6月19日
園芸用キンチョールE	クワカミキリ	7月2日、7月21日
※スピノエース顆粒水和剤	アザミウマ類	7月 4日
ランマンフロアブル	疫病	7月 4日
※Zボルドー	疫病	7月17日
モスピラン水溶剤	アザミウマ類、キボシカミキリ	7月17日、8月 8日
アンビルフロアブル	さび病	8月 8日

※印は、「化学合成農薬に含めない農薬」

7 今後の展望等

今回ちばエコ基準での栽培に成功した3戸は、ちばエコ農産物の栽培計画を申請し、来年度は認証に向けて取り組むことになりました。

ただし、いくつか課題も残りました。これまでほとんど問題になっていなかったネコブセンチュウの被害が一部のほ場で認められたため、今後は殺センチュウ剤による防除を徹底する必要が生じてきました。また、株枯病やショウジョウバエ類の発生も新たに確認されました。このような、新たな病害虫の発生が局所的とはいえ認められたため、組合員に広くちばエコ基準での栽培を勧めることは、見合わせざるをえませんでした。

今後はこの3戸を核に、ちばエコ基準での安定生産技術の確立に取り組み、他の組合員にも申請を広めて、環境にやさしく、安全・安心をアピールしていく予定です。